

AA(A)B

入学検査問題

国

語

聖学院中学校

※問題用紙 8枚
※解答用紙 1枚

座席番号		検査番号		名前	
------	--	------	--	----	--

(注意) 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

一 線部分のカタカナを漢字にしなさい。

- 1 車を買うとホジヨ金が出る。
- 2 報道のウラの真実を探る。
- 3 貧困カクサが社会問題となっている。
- 4 チームで行動するときにはギリツが必要だ。
- 5 彼はキンチヨウした様子でテストを受けた。
- 6 この算数の問題はヤサしい。
- 7 カクしていた情報がインターネットで公開された。
- 8 お金を銀行にアズける。
- 9 海にノゾむ白い家。
- 10 夕日が空を真っ赤にソめた。

□ 次の文章を読み、後の間に答えなさい。()、や。なども一字とします)

おばあちゃんといまは魔女である。中学生のいまは不登校になり、親元を離れ、神戸に住むおばあちゃんの家で生活している。ゲンジさんはおばあちゃんの家に向かいに住む男で、いまはゲンジさんをどうしても嫌ってしまう。

次の文章は、おばあちゃんが飼っていた鶏が何かの動物に襲われた後の場面である。

おばあちゃんは、自分が心から聞きたいと願った声でない声が聞こえたときは、即座に無視するのだと言っていたけれど、わたしが何かの声を、心から聞きたいと思うことなんかあるのかしら。そんなうす気味の悪いことをわたしが願うことがあるなんて思えないけれど……。でもそういう能力もないと、本当の魔女は目指せないのかしら……。

鶏小屋は修復できていたが、まだ鶏は入っていないかった。

もしその気があつたら、ゲンジさんが知り合いからチャボをもらつてきてくれると、おばあちゃんが朝食のとき、まいに告げたが、まいはもうしばらく鶏は見たくない、と応えた。けれど本当は、ゲンジさんから、というのがいちばんひっかつたのかもしれない。

「でも、おばあちゃんが欲しかったらいいよ」

まいはおばあちゃんのためなら、多少のことなら我慢できると思っていた。

「そうですね……。あんなことがあつたばかりですからねえ、もう少し、喪に服してからにしましょうか」

①喪に服す、というのはまいには初めての言葉だったが、何となく意味は分かった。そして、まいの気持ちを表すのにぴつたりの言葉だと思った。

まいが食器を持って席を立とうとしたとき、おばあちゃんが、引き出しから封筒を取り出した。

「ああ、そうそう、後片づけはおばあちゃんがやっておきますから、まいはゲンジさんのところに行って、このお金を渡してきてください」

まいは一瞬心臓が凍りついたかと思った。黙って食器をテーブルに降ろし、封筒を受け取った。

「今？」

まいは沈んだ声できいた。

「そうですね。ゲンジさんが出かける前がいいでしょうね」

おばあちゃんはまいの気持ちには全然気づいていないように思えた。今度は逃げられない。まいは覚悟を決めたものの気が重かった。

風の強い日だった。まいが前庭を通りかかったとき、乾いた砂ぼこりが風に舞った。②これは修行のひとつなのだ。何者もわたしを動揺させることはできない。まいはリラックスしようと思った。ご飯を食べたり、掃除をしたり、洗濯をしたりするのと同じ日常の一つなのだ。わたしはおばあちゃんに言われて、野菜に水をやりに行く。わたしはおばあちゃんに言われて、この封筒を届けに行く。同じようなことだ。ほら、届ける家が見えてきた。後は渡して帰るだけだ。

猛スピードの車が、二台続けて走ってきたので、まいは道路の手前でちよつと立ち止まった。すぐ左の電信柱の元に、まだあの陰湿な気が漂っていると感じた。不快になるのは止めようがなかった。こういう、わたし自身を支配するような感情が生じないように、自分でコントロールできるようにならなければいけない。魔女修行とはそういうものなのだから。まいは自分に言い聞かせた。

車が走り去り、安全を確認してから、まいは振り切るようにずんずん道路を横断して、ゲンジさんの家の庭に入っていた。

「おはようございます」

まいは大声で家の中へ向かって声をかけた。納屋と母屋の間の通路で、一斉に犬が吠えた。通路の入り口に、鉄製の柵が

してあり、その境の所で数匹の犬が重なり合うようにしてこちらを見ている。玄関げんかんから、破れた障子しょうじと日に焼けてささくれ立った畳たたみが見え、その向こうから二人の男が怪訝けげんそうな顔をしてこちらをのぞいていた。一人はゲンジさんだった。もう一人は、ゲンジさんによく似た、まいの知らない人だった。

「あの、これを……」

まいは玄関の敷居しきいぎりぎりのところから封筒を差し出した。ゲンジさんは、立ち上がって封筒を受け取り、中を確かめると、

「おう」

と呟つぶやくように言つてうなずいた。確かに領収した、という意味らしい。奥の方で、もう一人の男が声をかけた。

「どこの子じゃ」

ゲンジさんは封筒を持ったまま奥おくに戻もどっていった。

「外人とこの孫じゃ。学校なま怠なまけて遊あそんどんじゃ」

「そいじゃ、おまえとよう似たもん同士じゃの」

二人の高笑たかしょういが響ひびき、まいは③屈辱くつじやくと怒いかりと、それを抑おさえようとする力が一瞬こうまぐ交錯こうさくして、何が何だか分からなくなった。とにかく帰ろうとして、振り返ると、庭の片隅かたすみに薄茶色うすちやくろの毛の吹きだまりが目に入った。まいはなぜかその家の庭を出るまでそれから目が離せなかった。

左右も見ずに道路を走ったので、そのとき車が通らなかつたのはまいの運がよかつたのだろう。おばあちゃんの台所に入るまでに、まいはあの毛の塊かたまりによく似たものを以前見たことがあるのを思い出した。鶏小屋けいこやの金網かなあみに付いていたものとそっくりだ。まいの心に、冷たくて暗い確信かくしんのようなものが走った。

「ご苦労さまでした」

おばあちゃんは布巾ふきんを干しているところだった。

「おばあちゃん、あそこのうちの犬の毛、このあいだ金網かなあみに付いていた毛とそっくりだった」

まいは息を弾はずませながら、早口で言った。

おばあちゃんはパンパンと布巾をたたきながら、

「金網？」

と、悠長ゆうちやうにきいた。

「このあいだ、鶏わさが襲おそわれたときに金網かなあみに付いていたの。薄茶色の……」

「私たちの毛も薄茶色ですよ」

「違う。わたし、絶対あそこの犬の毛だと思おもう。あそこの犬が夜中に抜ぬけ出して、うちの鶏を襲おそったんだ」

まいは（④）で息をしていた。

「でも、まいはそれを見ていたわけではないでしょう」

「見なくても分かる」

おばあちゃんはため息をついた。

「まい、ちよつとそこへお座りなさい」

まいはテーブルについた。おばあちゃんも向かいに座った。

「いいですか。これは魔女修行のいちばん大事なレッスンの一つです。魔女は自分の直観ちくかんを大事にしなければなりません。でも、その直観に取りつかれてはなりません。そうなると、それはもう、激しい思しい込みこみ、妄想もうそうとなって、その人自身を支配しはいしてしまうのです。直観は直観として、心のどこかにしまっておきなさい。そのうち、それが真実であるかどうか分かるときがくるでしょう。そして、そういう経験を幾度いくどとなくするうちに、本当の直観を受けたときの感じを体得たいとくするでしょう」

「でも……」

「まいは自分の思っていることがたぶん真実だと思うのですね」
まいはうなずいた。

⑥あまり上等でなかった多くの魔女たちが、そうやって自分自身の創りだした妄想に取りつかれて自滅していききましたよ」
⑥まいは「瞬おばあちゃんに敵意のようなものを感じた。闇の中の白刃のようにそれはきらりと光った。

おばあちゃんは見通したように、まいの手を両手で包んだ。

「まい、どうか分かってください。これはとても大事なことです。おばあちゃんは、まいの言っていることが事実と違うことだといって非難しているのではないのです。まいの言うことが正しいかもしれない。そうでないかもしれない。でも、大事なことは、今更究明しても取り返しようなもない事実ではなくて、いま、現在のまいの心が、疑惑とか憎悪とかいったもので支配されつつあるということなのです」

「わたしは……真相が究明できたときに初めて、この疑惑や憎悪から解放されると思うわ」
まいは言い返した。

「そうでしょうか。私はまた新しい恨みや憎しみに支配されるだけだと思いますけれど」

おばあちゃんはまいの手を優しくなでた。

「そういうエネルギーの動きは、ひどく人を疲れさせると思いませんか？」

まいはきつくきつく奥歯を噛んだ。それから何だか憑きものが落ちたように肩を落とした。そして、ポツンと言った。

⑦「そう思う」

ひどい疲労感がまいを襲った。

「※マイ・ディア」

おばあちゃんはテーブルの向こうから手を延ばしてまいの頬をなでた。

（梨木香歩『西の魔女が死んだ』）

※マイ・ディア……「いい子ね」という意味

問一——①はどうすることを指していますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、鶏のために葬式そうしきをおこなうこと

イ、代わりの鶏を大切に育てること

ウ、別の動物を飼うこと

エ、派手な行いを慎むつつしこと

問二 まいは——②を何のための修行と考えていますか。「くなるため。」となるように文中から四十字以内でぬき出しなさい。

問三 まいが——③のような感情をもったのはなぜですか。その理由としてふさわしくないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、おばあちゃんが外国人であることで自分たちが差別されたように感じたから。

イ、自分では修行のつもりなのに、怠けて遊んでいるととらえられたから。

ウ、自分が大嫌いだと思っている相手と同類にされたから。

エ、ゲンジさんの犬が自分の鶏を襲ったことを確信したから。

問四 (④)に入る漢字を次の中から選んで「苦しそうに息をする」という意味の表現を完成させなさい。

ア、肩かた イ、鼻 ウ、首 エ、胸

問五 おばあちゃんは——⑤の発言をどのような調子で述べたと読み取れますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、断定的にきっぱりと

イ、やさしく言い聞かせるように

ウ、他人事のようにのんびりと

エ、いらだちを抑えておさ冷静に

問六 まいが——⑥のような感情を持ったのはなぜですか。その理由としてふさわしくないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、おばあちゃんが自分の言葉に聞く耳をもたないように感じたから。

イ、確信できることなのに、単なる思い込みと受け取られたように思ったから。

ウ、真相を究明し、ゲンジさんにどうしても謝罪して欲しかったから。

エ、自分が程度の低い魔女だと言われたように感じたから。

問七——⑦から、まいがおばあちゃんの言いたいことを十分に理解したことが読み取れます。では、ゲンジさんが飼う犬への疑惑に対して、この後、まいは具体的にどのような行動したでしょうか。本文をふまえて四十字程度で答えなさい。

③ 次の文章を読み、後の問に答えなさい。(、 や 。 なども一字とします)

あるコンサルタントの発言に耳を疑った。「会社は苦しいのだから、成果主義を導入して従業員にやる気を出してもらうのは当然でしょう」

仮に会社が業績好調であれば、金銭を従業員に分配することは可能だ。実際、昔から行われてきた。しかし、※1昇給の原資にも事欠く会社が、金銭を※2インセンティブに使えるわけがない。成果を出しても給料は上がらず、報われないと不満が募る。人件費を抑制したいのであれば、経営者も責任を認めて※3ベースダウンすればいい。そして、いかに金銭的報酬を使わず従業員を※4モチベートできるかに知恵を絞るべきだ。

それどころか成果主義には本質的欠陥がある。筆者が批判している成果主義とは、①できるだけ客観的にこれまでの成果を測ろうと努める②成果のようなものに連動した賃金体系で動機づけを図ろうとする——ことである。①と②のどちらか一つでも満たせば、必ず弊害が発生する。

働いても働かなくても同じだと※5揶揄されてきた※6年功序列と比べれば、一見はるかに正当そうなので、成果主義はこれまでなかなか正面切って批判されてこなかった。しかし、給料を上げれば勤労意欲が高まるという前提自体が科学的根拠のない迷信である。

金銭を中心とする①外的報酬による動機づけ理論は期待理論と呼ばれる。分かりやすく言えば、馬の鼻面にニンジンをつぶら下げて、食いたかつたら走ってみろという理論である。ところが、期待理論の創始者ブルームは、主著『仕事とモチベーション』の実質的な最終章で、※7パフォーマンスは目的そのものでもあり、個人は外的報酬とは無関係に、②高いパフォーマンスから直接満足を引き出していると書いているのである。確かに、子供のころを思い出してみれば、誰だって、テストで百点をとれば、うれしかったはずである。それで親から「報奨金」がもらえるということがなくても。

むしろ報奨金は仕事の喜びを奪う可能性すらある。③内発的動機づけで有名なデシは実験室に大学生を一人ずつ入れてパズルを解かせる実験を行った。実験の途中、一部の学生に解けたパズルの個数に応じてお金を支払うと、驚いたことに、無報酬のまま実験を続けた学生よりも、自由時間にパズルを解く時間が短くなったのである。つまり、お金をもらおうと休憩するようになったのだ。

デシが引用している米国南部の小さな町でのエピソードも印象的だ。洋服仕立屋を開いたユダヤ人に嫌がらせをするために、少年たちが店先で「ユダヤ人、ユダヤ人」とやじるようになった。困った彼は、ある日少年たちに「私をユダヤ人と呼ぶ少年には十セント硬貨をあげよう」と言いつて、少年一人ずつに硬貨を与えた。大喜びした少年たちは、次の日もやじりに来たので、今度は五セント硬貨を与えた。そしてさらに翌日、「これが精一杯だ」といつて一セント硬貨を与えると、少年たちは二日前の十分の一の額であることに文句を言い、「それじゃあ、あんまりだ」といつて二度と来なくなった。

どちらも、最初は楽しいから「仕事」をしていたのだ。ところが金銭的報酬が投げ込まれると、それが仕事と満足の間に割り込んで、「仕事↓金↓満足」と金のために仕事をするようになってしまう。だから金がなくなると、満足も得られなくなり、仕事をする気もまた失せるのだ。

かくして、成果主義は失敗する。「成果を上げれば金をたくさん払うから、嫌な仕事でも文句を言わずに働け」では人は懸命には働かない。仕事自体にやりがいや面白さを見いだせるようなシステムを作らなければ、人は懸命には働かない。

ある程度の歴史を持ち、生き延びてきた日本企業の「日本型年功制」は本質的に、給料で報いるシステムではなく、次の仕事の内容で報いるシステムだった。給料は、※8後顧の憂いを取り除き、安心して働くために、動機づけとは切り離して、生活費を保障するという観点から年齢別生活費保障給型賃金カーブがベース・ライン(平均値)として設計されていた。

④この両輪が日本企業の成長を支えてきたのである。それは従業員が日々の生活の不安におびえることなく仕事に没頭し、仕事の内容そのものによって動機づけられるという内発的動機づけの理論からすると最も自然なモデルでもあった。

そもそも、※9先達が築きあげてきた日本型の人事システムを年功序列だと思いつ込むこと自体、企業人としての常識を疑

う。明らかに年功序列ではない。仕事の報酬は次の仕事なので、まずは仕事、次いで賃金などの処遇しょぐうに差のつくシステムだったのである。賃金カーブはあくまでも平均値であり、年齢が進むにつれて大きな差がついた。

それでも、成果を客観的かつ正確に測定できる方法さえ開発できたら事情が変わるといふ人がいる。しかし、たとえば仮に大学向けに学生の学力を正確に測定できる画期的な試験方法が開発されたとしても、大学が巨額な費用をかけて導入し、各教員も初年度には研修と指導を受けながらの実施じしに百時間ほどを要し、二年目以降は……。

もちろんこれは作り話だが、これで仮に正確な学力測定が可能になったとしても、(⑤)であろう。そんな金と時間があるのなら、授業を少人数編成にしたり、学生の個別指導に時間をかけたりした方が、はるかに学力向上に効果があるし、学生も喜ぶはずだ。

それは企業にもそのまま当てはまる。エース級社員やダメ社員といった社内評価のはっきりした人以外は、評価に差をつけること自体が※10徒労なのだ。評価よりも、人材の育成にこそ金と時間をかけるべきだ。

(高橋伸夫『日本型年功制を生かせ』)

- ※1 昇給の原資……従業員に分配するためのもとなるお金
- ※2 インセンティブ……能率向上などへの刺激しげき
- ※3 ベースダウン……平均賃金を下げる
- ※4 モチベート……動機づけること、やる気を起こさせること
- ※5 揶揄……からかうこと
- ※6 年功序列……入社や役についた年度による職場での順序
- ※7 パフォーマンス……ここでは出来栄のこと
- ※8 後顧の憂い……あとあとの心配
- ※9 先達……先輩
- ※10 徒労……意味のないこと

問一 ― ①について、本文において「外的報酬による動機づけ」の意味に入らないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア、ニンジン
- イ、報奨金
- ウ、十セント硬貨こうが
- エ、生活費

問二 ― ②の説明としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア、人は、お金などとは別に、自分の仕事の出来栄がいいこと自体で、その仕事にやりがいを感じる。
- イ、人は外的報酬がなくても、奉仕ほうしの精神を働かせることで仕事にやりがいを感じる。
- ウ、外的報酬が多いか少ないかと、個人のやる気との間には、密接な関係がある。
- エ、人は自分の仕事の成功とお金とが結びついて、初めて満足を手に入れることができる。

問三 ― ③について、「内発的動機づけ」の意味に入らないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア、仕事自体のやりがい
- イ、次の仕事の内容
- ウ、仕事のおもしろさ
- エ、高賃金を得る意欲

問四 本文において、「学生のパズルの実験」と「ユダヤ人の仕立屋」の話は、何を説明するためのものですか。二十字以内で答えなさい。

問五 ― ④について、「この両輪」とはどのようなものですか。それぞれ二十字以内で説明しなさい。

問六 (⑤) に入るもっともふさわしい四字熟語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア、本末転倒
- イ、自業自得
- ウ、言語道断
- エ、枝葉末節

問七 本文の内容と合わないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア、日本の会社は従来の成果主義をなくして、以前の年功序列にもとすべきた。
- イ、社員に評価を下して報奨金を与えるよりも、もっと人材育成に力を注ぐべきだ。
- ウ、年齢とともに報酬が増える年功序列と日本企業の年功制システムとは違いがある。
- エ、人は、お金よりも自分がどれだけその仕事に打ち込めたかの方に満足の基準を置く。

